特集

第20回 通常総代会

第七次3カ年計画の最終年度 JA自己改革を着実に進め 組合員メリットの実現をめざす

6月27日に『第20回通常総代会』を、能代市文化会館で開催し、平成29年度事業報告や信用事業規程の一部変更、平成30年度計画など全6議案のほか、付帯決議および特別決議を協議し、それぞれ原案通り承認されました。

通常総代会には総代500人のうち、実出席216人、書面議決226人、委任状5人の合計447人が出席。

はじめに佐藤組合長が「全ての事業が厳しい事業展開を余儀なくされる中で、組合員の皆さまのご理解とご協力で、1億899万円の当期剰余金を計上することができ、出資配当を提案することができた。平成30年度は、11月で当JAが誕生してから20周年の節目の年でもあり、また、JAあきた白神第七次3カ年計画の最終年度として、計画を確実に実行して行くと共に、厳しい農業情勢を直視し、将来を見据えたJA自己改革を着実に進め、組合員メリットの実現をめざしていく」などとあいさつをしました。

その後、永年勤続表彰や来賓祝辞が行われ、大塚忠之さん（河戸川地区）を議長に議事が開始し、事業報告及び剰余金処分案の承認など全6議案を含む全ての提出議案が原案通り承認されました。

◎平成29年度決算について

組合員の脱退等により出資金の期末残高は21億5,637万円（前年対比3,229万円減少）となりました。また、自己資本の期末残高は29億3,979万円（同5,984万円増加）となり、期末の自己資本比率は12・75％（同0・25％増加）となりました。

また、課題となっている不良債権については、債務者への経営指導による延滞解消などに努め、不良債権比率は2・68％（同0・01％